

主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	金子 智紀
主 論 文 題 目： 介護現場における「ともに生きるケア」の実現に向けた支援 —「思考の補助具」としてのパターン・ランゲージの制作と導入—				
(内容の要旨)				
本論文では、高齢者福祉施設の介護職員のよりよい実践を支援する「思考の補助具」を制作し、現場への導入を通じてその具体的な効果や改善点を示す。本研究では、介護現場におけるよりよい実践のあり方として、同じ場を過ごすひとりの人として一緒にその場をつくるという関係性を構築するケアと場づくりを「ともに生きるケア」と定義する。 まず、よりよい実践を支援するための「思考の補助具」の制作を行った。具体的には、「ともに生きるケア」を実現するために実践者が何を行っているのか、そして介護職員を支援するためには何を伝えれば良いのかを特定し、パターン・ランゲージの形式で記述した。結果、介護職員のよりよい実践を支援するための30のパターンが言語化された。制作したパターンの内容に対して得られた現場からのフィードバックと各パターンの実践状況の調査を通じて「思考の補助具」としての可能性を検討した。 次に、介護職員のよりよい実践を支援するために、「思考の補助具」を用いた①よい実践についての学びの支援と②よい実践に向けた目標設定の支援を、介護現場に導入し、その効果と改善点を検討した。①の結果、パターンの内容を読むことで初心に立ち帰る気づきや「ともに生きるケア」へのモチベーションを高める意識の変化が得られること、そして事後アンケートからは、実践に役立てられることが確認された。また、他者の「ともに生きるケア」の実践から学ぶ際にパターンを用いて経験を語り合うことで、話題の焦点化や経験の言語化が促進され、さらには経験年数の差に関わらず効果的に学び取ることが示された。②の結果、パターンを用いて目標設定をすることは、個人やチーム、組織にとって、「ともに生きるケア」の目標設定をする際の思考の補助となり、計画が立てやすく、実践を振り返る際にも役立つことが確認できた。 本研究の意義は、高齢者福祉の分野におけるよりよいケアを実現するための新しい支援方法を考案・制作し、実際に現場に導入を試み、その効果の可能性を示した点にある。これは学術的な成果であるとともに、「ともに生きるケア」のパターン・ランゲージを介護職員がどのように活用可能なかを例示したことにもなり、現場での活用への道も拓いたと言える。				
キーワード				
1. 高齢者介護、2. 介護施設、3. 実践支援、4. アクションリサーチ、5. パターン・ランゲージ				